

史跡 齋宮跡

平成20年度現状変更緊急発掘調査報告

平成22(2010)年3月

明 和 町

序

平成21年は、齋宮跡が国史跡の指定を受けてから30周年をという節目の年を迎え、3月29日には、指定当時からご尽力いただいた関係者・団体等多くの方をお招きし、記念式典をおこない、あらためて齋宮跡の重要性を感じました。

また、7月10日には長年にわたる発掘調査で出土した大量の出土品の中から2,661点が一括して国の重要文化財にはじめて指定された年でもあります。

一方、30年を振り返り、今まで以上に齋宮跡を町の活性化の中心とするため「齋宮跡を核とした町の活性化基本方針」をまとめました。今後は、基本方針で掲げた各種取り組みをどのように事業化し、活性化につなげていくかを地域の人々と共に進めていかなければならないと考えております。

また、三重県において検討いただいております史跡東部の実物大建物復元などの史跡整備についても、整備基本計画書が提示されましたので、平成25年の伊勢神宮式年遷宮を目標に、地元の方々とともに実現できるよう努力していかなければならないと考えています。

このように保護・保存を進める一方、史跡地内には約600世帯に及ぶ住民が生活していることもあり、生活に結びつく現状変更等許可申請が数多く提出されます。

この報告書は、平成20年度に提出された現状変更等許可申請の中で事前発掘調査が実施された5件の結果についてまとめたものです。

現状変更に伴う調査は、広い史跡内に点在しており、計画調査では得られない貴重な成果を与えてくれるもので、その積み重ねが齋宮跡を解き明かすものと思っています。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた齋宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成22（2010）年3月

三重県多気郡明和町
町長 中井 幸 充

例 言

- 1 本書は、平成20（2008）年度に明和町が実施した史跡齋宮跡（三重県多気郡明和町齋宮・竹川地区の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査は、国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、齋宮歴史博物館調査研究課および明和町齋宮跡課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：6AL13）については、『史跡齋宮跡平成13年度発掘調査概報』（齋宮歴史博物館 2003）による。
- 5 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構の時期区分については、『齋宮跡発掘調査報告Ⅰ』（2001）を基準とした。
- 7 遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。
SA：柱列・塀 SB：掘立柱建物 SD：溝 SE：井戸 SF：道路
SK：土坑 SH：竪穴住居 SZ：落ち込み等 SX：墓・不明遺構
- 8 図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、齋宮歴史博物館で一括保管している。
- 9 本書の執筆は、大川勝宏・角正芳浩（齋宮歴史博物館）、中野敦夫（明和町齋宮跡課）が分担し、編集は角正・中野が担当した。なお、文責は文末に示した。

目 次

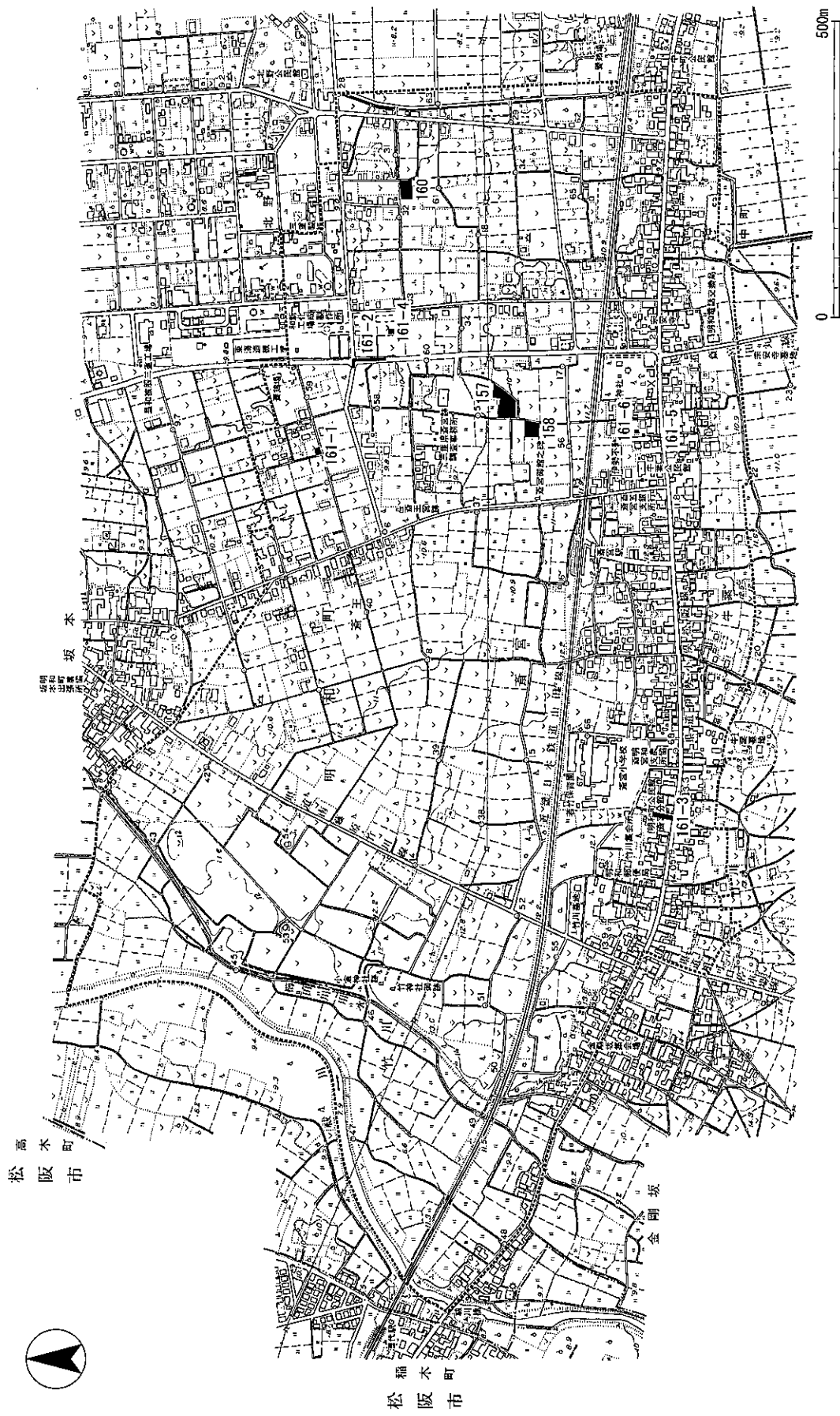
I	前言	1
II	調査報告	
1	第161-1次調査	2
2	第161-3次調査	3
3	第161-4次調査	4
4	第161-5次調査	6
5	第161-6次調査	6
付編	史跡現状変更等許可申請	9

表・挿図目次

[表] 1	史跡現状変更等許可申請の推移	1
2	第161-1・4・6次調査 検出遺構一覧	7
3	第161-4次調査 掘立柱建物一覧	7
4	第161-1・4・6次調査 出土遺物観察表	8
5	平成20年度史跡現状変更等許可申請一覧表	10
[図] 1	発掘調査地区位置図 (1:10,000)	
2	第161-1次調査 調査区位置図 (1:2,000)	2
3	第161-1次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)	2
4	第161-1次調査 出土遺物実測図 (1:4)	2
5	第161-3次調査 調査区位置図 (1:2,000)	3
6	第161-3次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)	3
7	第161-4次調査 調査区位置図 (1:2,000)	4
8	第161-4次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)	4
9	第161-4次調査 出土遺物実測図 (1:4)	5
10	第161-5次調査 調査区位置図 (1:2,000)	6
11	第161-5次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)	6
12	第161-6次調査 調査区位置図 (1:2,000)	6
13	第161-6次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)	7
14	第161-6次調査 出土遺物実測図 (1:4)	7

写真図版

1	第161-1次調査	上：調査区全景（西から）	下：SD7339（西から）
2	第161-3次調査	上左：Aトレンチ全景（南から） 下左：Cトレンチ全景（南から）	上右：Bトレンチ全景（南から） 下右：Dトレンチ全景（南から）
3	第161-4次調査	上：調査区全景（北から）	下：掘立柱建物SB10043、10045、10046（南から）
4	第161-5・6次調査	上：5次調査区全景（北から）	下：6次調査区全景（北から）



第1図 発掘調査地区位置図 (1 : 10,000)

I 前 言

史跡齋宮跡では、平成20年度に41件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移してきたものが近年では30件程度に減少しており、今年度の状況はこうした傾向が顕著になってきているといえる。

内訳をみると、史跡内住民による個人住宅の新築や撤去、樹木の植栽や撤去、明和町による上下水道の整備、道路の修繕などがある。このうち、発掘調査が必要となった案件はわずか6件であった。

平成17年度以降継続して実施されている明和町の下水道事業は、町単費により第161-2次調査として87.4㎡の調査を行った。これは今年度実施した現状変更に伴う調査面積全体(237.26㎡)の37%にあたる。この下水道事業にかかる調査成果については、別途調査報告書の刊行を予定している。

第161-1・3・4次調査は個人住宅の新築・改築に伴う調査で、建物の基礎にあたる部分を中心に調査した。

第161-5次調査は個人住宅新築に伴う浄化槽部分の調査、第161-6次調査は個人の農業用倉庫新築に伴う基礎部分の調査を竹神社西側の県道沿いの宅地で行った。

平成20年度の史跡現状変更に伴う調査は、下水道事業に伴うものを除いて、小規模なものが多く、齋宮跡の実態解明にとって重要な成果をもたらすものではなかったが、住宅密集地における遺構の密度や遺構面の高さなど、史跡保護に係る貴重なデータの蓄積がなされたことを評価したい。(角正芳浩)

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (㎡)	うち補助金調査件数	同調査面積 (㎡)
昭和54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	45	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	12	1,021	8	323
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
計	1,310	333	60,806	201	23,773

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

II 調査報告

1 第161-1次調査(6AQ7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2891-4

原因 住宅建築

調査期間 平成20年9月8日 ~ 同年9月17日

調査面積 46㎡

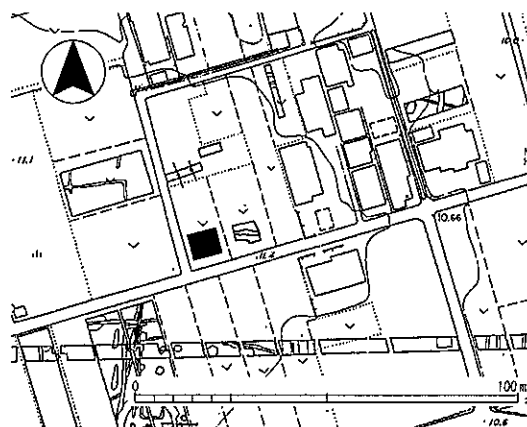
調査概要

第161-1次調査は史跡北部、斎王の森の北東約300mに位置する雑種地において、個人住宅の新築に伴い実施した。当該地にはかつて漬物工場等が建っていたため、攪乱が多く認められた。

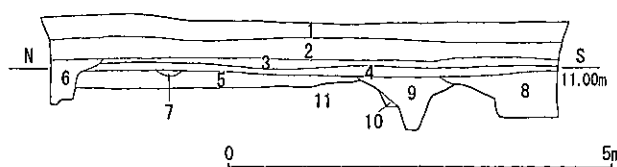
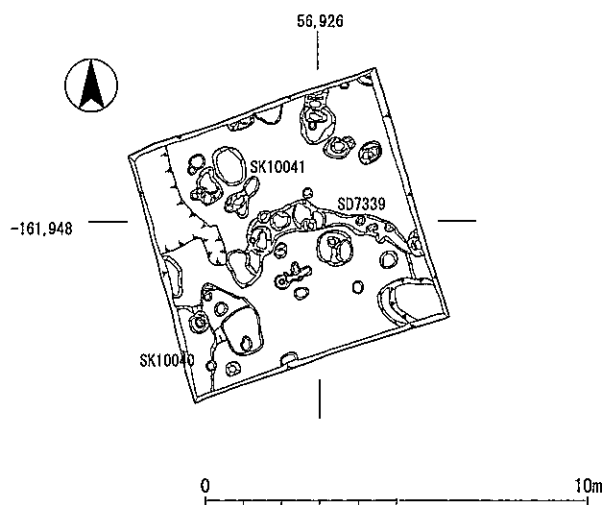
調査地は約0.6mの盛土がされており、現地表面から約1.0m掘り下げた地点で遺構検出面である地山面に達した。基本層序は、盛土・旧表土・黒褐色土(黒ボク)・明褐色粘質土(地山)となる。遺構検出面のレベルは、標高約10.7mである。

検出された遺構には、鎌倉時代の溝1条、土坑2基のほか複数のピットがある。SD7339は隣地で実施した第106-2次調査で検出されており、今回確認されたのは、その西側の延長部分にあたりと見られる。ピットとの重複が著しいが、幅0.6~1.3m、深さ15~25cmの規模をもち、土師器皿(1)や陶器(いわゆる「山茶椀」)(2~4)等が出土した。SK10040は、調査区の南西隅で一部分を検出し、土師器鍋(5)が出土した。SK10041は、調査区の北西部で検出した。長径約1.0m、短径約0.7mの平面楕円形をなし、検出面からの深さは約30cmである。陶器(6)が出土した。いずれも出土した土器から、13世紀代と考えられる。

(角正芳浩)

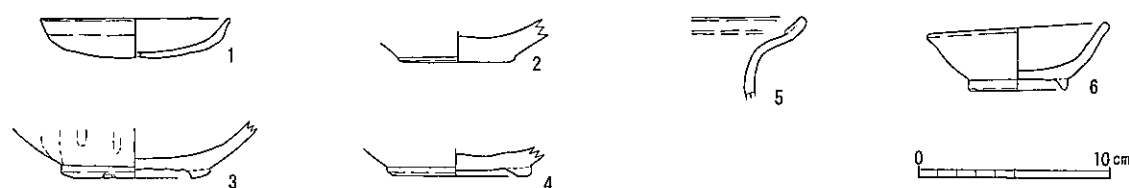


第2図 第161-1次調査区位置図(1:2,000)



- 1 明黄褐色土(山砂) } 客土 10YR7/6
- 2 こぶし大礫
- 3 褐灰色粘質土 7.5YR5/1
- 4 にぶい黄褐色土 10YR4/3
- 5 黒褐色土(黒ボク) 5YR2/1
- 6 黒褐色土と7.5YR5/8明褐色粘質土の混在(樹木根) 10YR3/2
- 7 黒褐色土10YR2/2
- 8 黒色土に7.5YR5/8明褐色粘質土混ざる(樹木根) 10YR2/1
- 9 黒褐色土に7.5YR5/8明褐色粘質土混ざる(樹木根) 2.5Y3/1
- 10 黒褐色土(樹木根) 2.5Y3/1
- 11 明褐色粘質土(地山) 7.5YR5/8

第3図 第161-1次調査遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)



第4図 第161-1次調査出土遺物実測図(1:4)

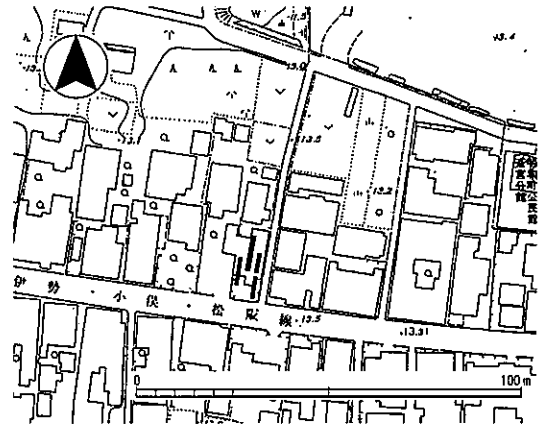
2 第161-3次調査 (6AK13)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏267
 原因 住宅建替
 調査期間 平成20年11月18日 ~ 同年11月26日
 調査面積 19.6m²
 調査概要

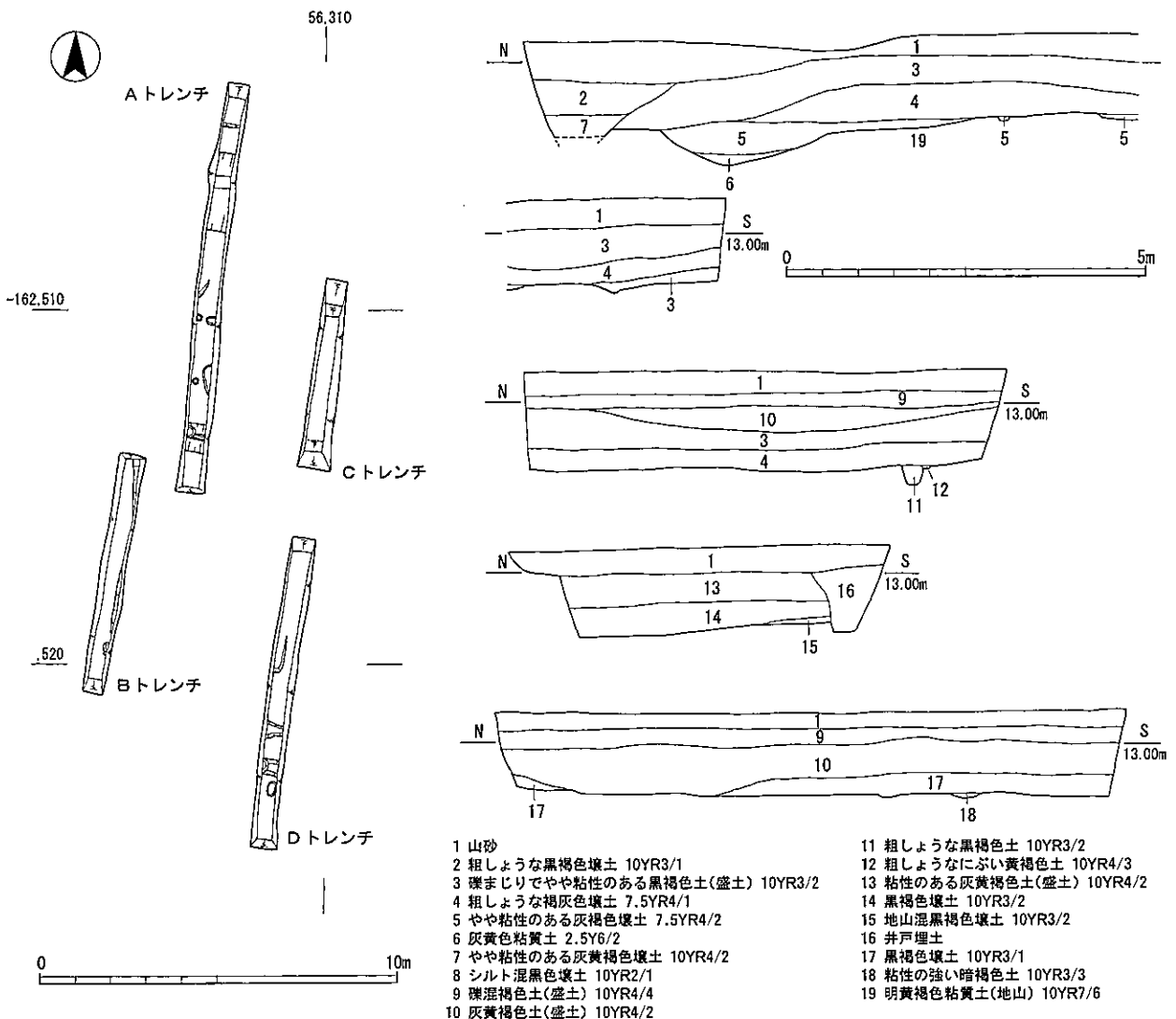
第161-3次調査は、史跡南部の県道(旧参宮街道)沿いの宅地において、個人住宅の改築に伴って実施した。当該現状変更では事前の地質調査の結果に基づき、パイル工法により施工されるため、鋼管杭の打設予定箇所をつなぐ形で布掘り状に調査区を設定した。

調査の結果、現地表面から1.2~1.3m掘り下げた地点で遺構を検出できる黄橙色粘質土の地山面に達するが、申請地全体が北に向かって緩やかに傾斜しており、現況では1m近い盛土がなされていた。この盛土内から近世後期の陶磁器が出土した。

遺構はほとんどなく、確認されたピットや溝、落ち込みはいずれも近世のものと見られる。溝からは、近世の土師器片が出土している。(角正芳浩)



第5図 第161-3次調査区位置図 (1:2,000)



第6図 第161-3次調査遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

3 第161-4次調査 (6A S 8)

調査場所 多気郡明和町大字齋宮字西前沖2650-2、2651
 原因 住宅建築
 調査期間 平成20年12月2日 ~ 同年12月19日
 調査面積 72.5㎡
 調査概要

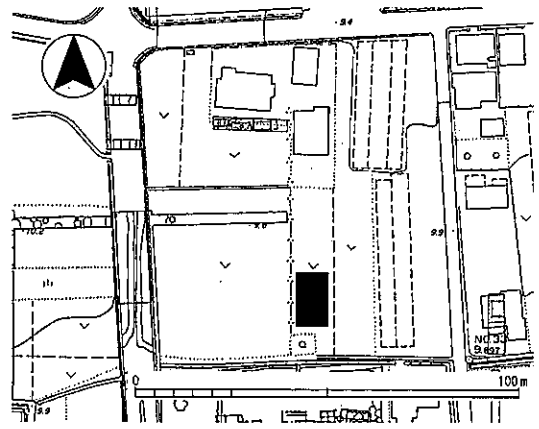
本調査は、史跡の北東部の宅地とその延長の畑地で、個人住宅の離れの新築に先立ち、実施した。調査箇所は、史跡東部で確認されている平安時代の方格地割の想定北限ラインの北側にあたり、昭和59年度に、今回の東方約70mで実施した第54次調査でも、方格地割の北限に関わるとみられる溝のほか、平安時代後期～末期の小規模な掘立柱建物が極めて密集した状態で確認されている。今回の調査でも、同様に高い密度での遺構の確認が予想された。

調査区は、現状変更申請地の敷地内で、建設予定地に南接する箇所ので、約70㎡の調査区を設定した。調査の結果、現地表面から40cmほどで、明黄褐色粘土の地山面に達し、予想通り高い密度で掘立柱建物の柱とみられる遺構を多数検出した。調査区が狭隘であるため、建物として全体像が確定できないが、少なくともS B10042～10047の6棟以上の掘立柱建物を確認した。

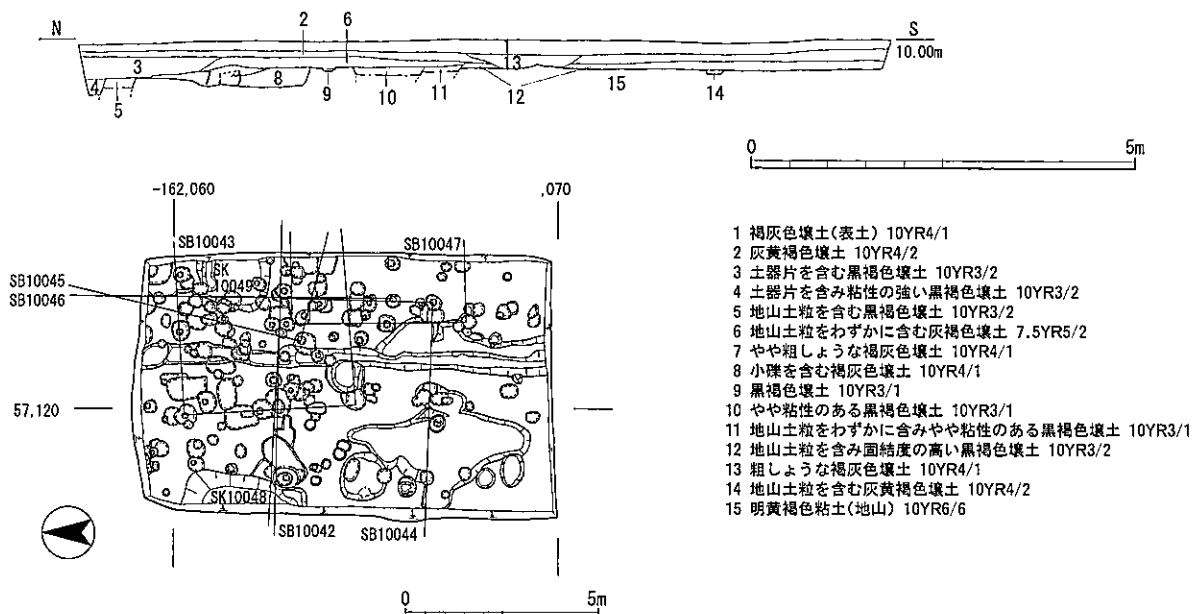
土坑はS K10048・10049を検出した。調査区西壁にかかるように検出したS K10048は長径約3.0mで、略方形を呈し、遺構検出面からの深さは約0.3mである。炭化材の小片を伴って、齋宮跡編年のⅡ-1期に相当する土器類が出土した。また、調査区の東壁にかかるように検出したS K10049は一辺約2.0mの略方形で、深さ約0.3mである。Ⅲ-3期～鎌倉時代の土器類が整理箱で1箱分出土した。全体的に調査区の南にいくほど遺構の密度は低くなるようである。

出土遺物は、S K10048から、調査区外の部分も広いと想定されるものの、土師器杯・皿・甕を中心に、整理箱で5箱分の土器が出土している。この中には、土錘・製塩土器片や、櫛羽口片・鋳型用素材粘土を焼成したとみられる小片も含み、当該地域の性格を考える上で興味深い。また柱穴から緑釉陶器段皿(40)の破片も出土している。

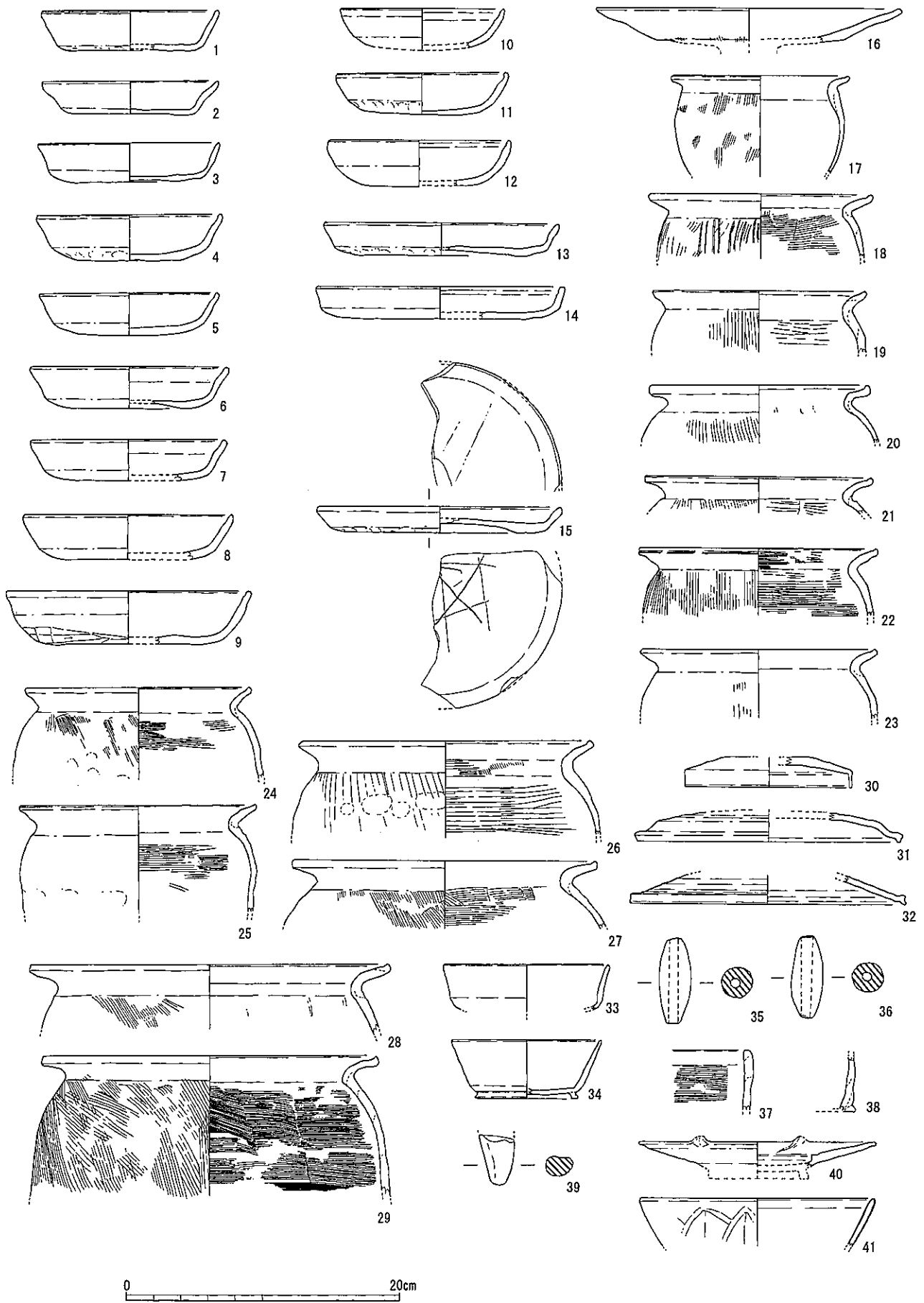
(大川勝宏)



第7図 第161-4次調査区位置図 (1:2,000)



第8図 第161-4次調査遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)



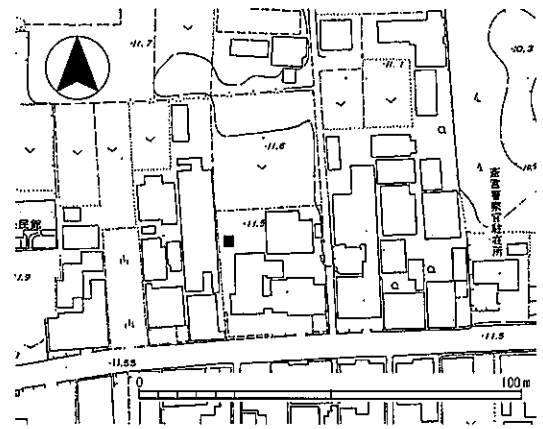
第9図 第161-4次調査出土遺物実測図 (1:4)

4 第161-5次調査 (6AQ12)

調査場所 多気郡明和町大字齋宮字牛葉2996
 原因 住宅改築
 調査期間 平成20年12月2日
 調査面積 5.8㎡
 調査概要

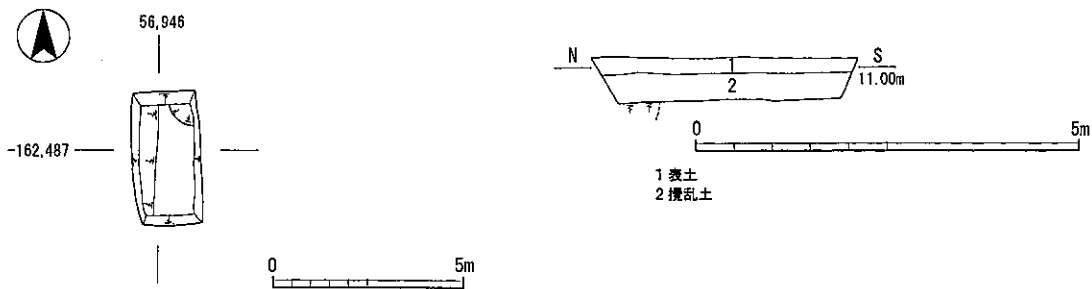
第161-5次調査は、史跡東部の県道（旧参宮街道）沿いの宅地において、個人住宅の建設に伴う合併浄化槽の設置に伴い実施した。

調査の結果、現地表面から約0.8m掘削した地点で地山面を確認したが、調査区内は広範囲にわたって攪乱されており、これが本来の地山レベルであるかどうか不明である。攪乱に伴う落ち込みを確認したのみで、明確な遺構は確認されなかった。また、遺物の出土もない。



第10図 第161-5次調査区位置図 (1:2,000)

(角正芳浩)



第11図 第161-5次調査遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

5 第161-6次調査 (6AQ12)

調査場所 多気郡明和町大字齋宮字牛葉2996、2998-5
 原因 農業用倉庫新設
 調査期間 平成21年1月27日 ~ 同年1月29日
 調査面積 6㎡
 調査概要

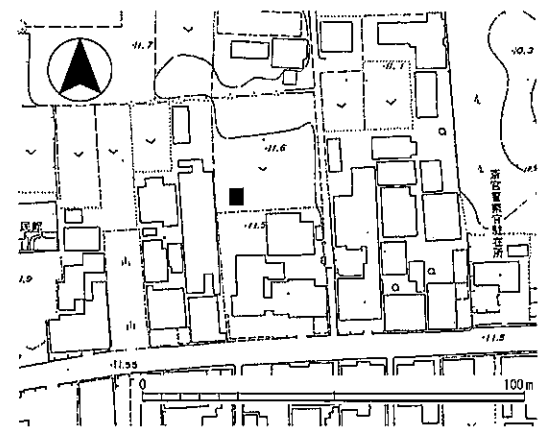
第161-6次調査は、史跡東部に位置する畑地および宅地において、農業用倉庫の新設に伴い実施した。

基本層序は上層から、旧表土、黒褐色土（黒ボク）、明褐色粘質土（地山面）となる。構検出面は標高約11.0mである。

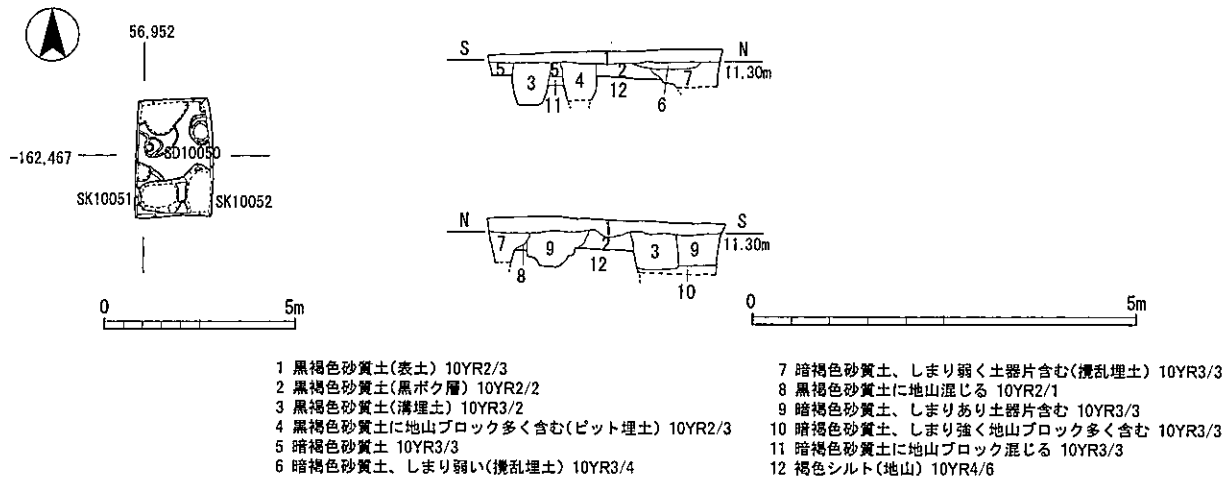
検出した遺構には、平安時代前期の溝1条、土坑2基、ピット1基があるが、調査面積が狭小であるため、遺構の性格については明らかにできていない。

S D10050は、幅0.7m、検出面からの深さ25cmで、断面は逆台形の東西方向の溝である。S K10051は調査区の西側で検出した。平面は隅丸方形に近く、検出面からの深さは40cmである。S K10052は調査区の東側で一部分を検出した。検出面からの深さは30cmで、土師器杯・甕、緑釉陶器碗等が出土した。

(1・2)は、緑釉陶器稜碗である。いずれもK-90号窯式期2型式（齋宮編年Ⅱ-3期）に相当する。



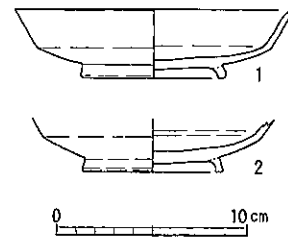
第12図 第161-6次調査区位置図 (1:2,000)



第13図 第161-6次調査遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

本調査区は竹神社の西側に位置し、方格地割りの牛葉西区画の東端にあたる。東隣の牛葉東区画は斎王の居所である「内院」であったと考えられている。区画の大部分が近鉄線以南に位置することもあり、牛葉西区画における調査事例は極めて少ない。今回の調査では「内院」隣接区画の状況について、わずかではあるが貴重なデータを得ることができた。

(角正芳浩)



第14図 第161-6次調査出土遺物実測図(1:4)

調査次数	遺構番号	種別	調査時遺構名	地区	時期	遺構の性格・遺物・その他
161-1	SD7339	溝	溝1		13世紀代	106-2次調査で検出した延長部分
161-1	SK10040	土坑	土坑3		13世紀代	
161-1	SK10041	土坑	土坑4		13世紀代	
161-4	SK10048	土坑	土坑1	A1	II-1	土師器杯A・杯G・皿A・高杯・甕・長胴甕・製塩土器/須恵器杯A・杯B・蓋・鉢・壺・甕・把手付盤/土馬?・土鍾
161-4	SK10049	土坑	土坑2	B1	IV	土師器小皿・鍋/陶器椀(山茶椀)
161-6	SD10050	溝	溝1		II-2	
161-6	SK10051	土坑	土坑1		II-2	
161-6	SK10052	土坑	土坑2		II-2	

第2表 第161-1・4・6次調査 検出遺構一覧

調査次数	遺構番号	ピット	時期	規模	柱間	主軸	方位	備考
161-4	SB10042	(A1)P18/(B1)P35	II-1か	-(-)×(-)	2.4m	東西	N2°E	SB・より古
161-4	SB10043	A1-P1・11・14/A2-P15	II-2か	-(-)×2(4.2)	2.2m	東西	N4°W	
161-4	SB10044	A1-P2・17/B2-P9・23・25	III	-(-)×2(4.0)	(梁)2.4m (桁)2.0m	東西	N4°E	
161-4	SB10045	B1-P5・9・27/B2-P14	III	-(-)×(-)	2.1m	?	N15°E	SBより古
161-4	SB10046	B2-P5・17	IIか	-(-)×(-)	3.0m	南北?	N1°E	柵列か
161-4	SB10047	B1-P32・33/B2-P21/ B3-P6	III	-(-)×2(4.6)	2.3m	?	N1°E	

第3表 第164-4次調査 掘立柱建物一覧

番号	調査 次数	器種	器形	地区 ・遺構	法尺(cm)	調査・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
第161-1次調査												
1	161-1	土師器	小皿	SD7339	口径 器高 9.9 2.1	口縁部ヨコナデ 体部オサエ ナデ	密	良	灰黄緑10YR5/2	口縁部4/12		001-03
2	161-1	陶器 山茶椀	椀	SD7339	口径 器高 高台径 (1.5) 6.0	体部ロクロナデ 底部回転 糸切痕	~6.0mmの 白色粒多含	良	浅黄2.5Y7/4	高台ほぼ 完形		001-06
3	161-1	陶器 山茶椀	椀	SD7339	口径 器高 高台径 (2.6) 6.2	体部ロクロナデ 底部回転糸 切痕 貼付高台	密	良	外：浅黄2.5Y7/3 内：黄灰2.5Y5/1	高台部6/12	内外面自然釉 高台部粉遺痕	001-05
4	161-1	陶器 山茶椀	椀	SD7339	口径 器高 高台径 (1.4) 6.4	体部ロクロナデ 底部回転糸 切痕 貼付高台	密	良	灰白2.5Y7/1	高台部6/12	内面自然釉	001-04
5	161-1	土師器	甕	SK10041	口径 器高 高台径 -	口縁部ヨコナデ 体部外面オ サエ後ヨコナデ 内面ヨコナデ	~3.0mmの 白色粒多含	良	にぶい黄緑10YR7/4	口縁部1/12 以下	外表面ス付着	001-02
6	161-1	陶器 山茶椀	椀	SK10040	口径 器高 高台径 9.1 3.3 4.9	体部ロクロナデ 底部糸切後 ナデ 貼付高台	密	良	灰白5Y7/1	口縁部7/12 高台部11/12	内外面自然釉 内面摩耗・重焼き痕	001-01
第161-4次調査												
1	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 12.8 2.95	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑5YR7/8	口縁部2/12		001-08
2	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 12.8 2.4	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑5YR6/8	口縁部6/12		002-01
3	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 13.1 2.9	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	並	緑5YR6/8	口縁部10/12		002-02
4	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 13.4 3.4	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑5YR6/6	口縁部2/12		001-06
5	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 13.0 3.1	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑5YR6/8	口縁部4/12		001-01
6	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 14.2 3.1	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑5YR6/8	口縁部4/12		001-03
7	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 14.0 3.0	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	明赤褐2.5YR5/8	口縁部3/12		001-04
8	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 15.2 3.3	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑2.5YR6/6~緑 5YR6/6	口縁部3/12		001-05
9	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 17.6 3.9	口縁部ヨコナデ 体部外面ヘ ラズリ・ナデ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑5YR6/6	口縁部3/12		001-07
10	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 11.9 2.8	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ	~2.0mmの 白色粒多含	並	にぶい黄緑10YR7/4	口縁部2/12		002-06
11	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 12.2 3.05	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑5YR6/6	口縁部9/12		001-02
12	161-4	土師器	杯	SK10048	口径 器高 13.0 3.3	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	~2.0mmの 白色粒多含	並	外：浅黄緑7.5YR8/4 内：浅黄緑10YR8/3	口縁部2/12		002-05
13	161-4	土師器	皿	SK10048	口径 器高 17.0 2.4	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑5YR6/8	口縁部4/12		002-04
14	161-4	土師器	皿	SK10048	口径 器高 17.6 2.4	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ナデ	密	良	緑5YR7/8	口縁部3/12		002-03
15	161-4	土師器	皿	SK10048	口径 器高 17.6 1.9	口縁部ヨコナデ 体部外面オ サエ・ナデ 内面ナデ	~2.0mmの 白色粒多含	良	緑7.5YR6/8	口縁部3/12	内外面底部刻脊	005-07
16	161-4	土師器	高杯	SK10048	口径 器高 21.8	杯部：口縁部ヨコナデ 体部 外面ナデ・オサエ・ハケ内面 ナデ	~3.0mmの 白色粒多含	並	緑5YR6/8	口縁部5/12		004-05
17	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 12.8 (7.2)	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ヨコナ デ	~3.0mmの 白色粒多含	並	浅黄緑10YR8/3	口縁部5/12	内外表面赤変	003-06
18	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 16.0 (4.7)	口縁部ヨコナデ 体部外面タ テハケ内面ナデ・ヨコハ ケ	やや粗	並	にぶい黄緑10YR7/4	口縁部2/12	口縁部ス付着 外表面赤変	004-03
19	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 15.4 (4.5)	口縁部ヨコナデ 体部外面タ テハケ内面ヨコハケ	~2.0mmの 白色粒多含	並	浅黄緑10YR8/3	口縁部2/12	外表面赤変	002-09
20	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 15.3 (4.3)	口縁部ヨコナデ 体部外面タ テハケ内面調整不明	~2.0mmの 白色粒多含	並	浅黄緑10YR8/3	口縁部2/12		002-08
21	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 16.4 (2.6)	口縁部ヨコナデ 体部外面タ テハケ内面ヨコハケ	~1.0mmの 白色粒多含	並	浅黄緑10YR8/3	口縁部2/12		003-04
22	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 17.2 (4.9)	口縁部ヨコナデ 体部外面タ テハケ内面ヨコハケ	~1.0mmの 白色粒多含	並	灰白10YR8/2	口縁部3/12		003-05
23	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 16.8 (5.0)	口縁部ヨコナデ 体部外面タ テハケか?	~3.0mmの 白色粒多含	並	浅黄緑10YR8/3	口縁部3/12		004-02
24	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 16.2 (6.6)	口縁部ヨコナデ 体部外面タ テハケ・ナナメハケ	~2.0mmの 白色粒多含	並	浅黄緑10YR8/3	口縁部2/12		003-03
25	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 17.3 (7.9)	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ デ・オサエ 内面ヨコハ ケ	~2.0mmの 白色粒多含	並	緑7.5YR7/6	口縁部3/12	内外面ス付着 外表面赤変	004-04
26	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 21.0 (6.9)	口縁部ヨコナデ 体部外面タ テハケ・オサエ 内面ナ デ・ハケ	やや粗	並	浅黄緑7.5YR8/4	口縁部3/12		002-07
27	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 22.0 (4.9)	口縁部ヨコナデ 体部外面タ テハケ内面ヨコハケ	~2.0mmの 白色粒多含	並	にぶい黄緑10YR7/4	口縁部3/12		003-02
28	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 26.0 (4.7)	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ ナメハケ 内面ヨコハ ケか?	~3.0mmの 白色粒多含	並	浅黄緑10YR8/3	口縁部2/12		003-01
29	161-4	土師器	甕	SK10048	口径 器高 24.2 (10.3)	口縁部ヨコナデ 体部外面ナ ナメハケ・タテハケ 内 面ヨコハケ	~3.0mmの 白色粒多含	並	浅黄緑10YR8/4	口縁部4/12		004-01
30	161-4	須臾器	蓋	SK10048	口径 器高 12.0	口縁部ヨコナデ 体部外面ロ クロナデロクロズリ 内 面ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	口縁部4/12	外表面自然釉	005-02
31	161-4	須臾器	蓋	SK10048	口径 器高 19.0	口縁部ヨコナデ 体部外面ロ クロナデ 内面ロクロナ デ	密	良	灰N6/	口縁部3/12		005-01
32	161-4	須臾器	蓋	SK10048	口径 器高 19.8	口縁部ヨコナデ 体部ロ クロナデ	密	良	外：灰5Y6/1 内：灰黄2.5Y6/2	口縁部3/12		005-03
33	161-4	須臾器	杯A	SK10048	口径 器高 12.0	体部ロクロナデ	密	やや 軟	灰白2.5Y8/1	口縁部1/12		004-07
34	161-4	須臾器	杯B	SK10048	口径 器高 高台径 10.9 4.3 6.7	外面ロクロナデ 体部外面 内面ロクロナデ 底部回 転糸切痕 貼付高台	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部4/12	外表面自然釉	004-06
35	161-4	土鍾		SK10048	全長 最大幅 孔径 6.3 2.2 0.7	ナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	完形	重さ29.65g	006-02
36	161-4	土鍾		SK10048	全長 最大幅 孔径 6.0 2.2 0.8	ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	完形	重さ27.37g	006-01
37	161-4	製塩 土器		SK10048	口径 器高 高台径 -	口縁部ヨコナデ 体部外面オ サエ後ナデ 内面ヨコハ ケ	~10.0mmの 粒多含	やや 不良	緑5YR6/6	口縁部1/12 以下	内外表面赤変	005-04
38	161-4	製塩 土器		SK10048	口径 器高 高台径 -	体部外面オサエ後ナデ内面ナ デ 底部ハリツケナデ	~3.0mmの 白色粒多含	良	緑5YR6/6	底部1/12 以下		005-05
39	161-4	不明 土製品		SK10048	口径 器高 高台径 -	ナデ・オサエ	密	良	浅黄緑10YR8/3			005-08
40	161-4	緑釉 陶器	輪花 段皿	B-2 P13	口径 器高 高台径 17.2	口縁部ヨコナデ 体部ロ クロナデ	密	良	素地：灰黄2.5Y7/2 釉：抹茶色S-838	口縁部2/12		007-02
41	161-4	青磁	椀	包含層	口径 器高 高台径 (17.0) (3.5)	体部ロクロナデ	密	良	素地：灰白2.5Y7/1 釉：灰緑S-857	口縁部1/12	全面施釉 厚0.5mm 内面に施文	007-04
第161-6次調査												
1	161-6	緑釉 陶器	椀		口径 器高 高台径 14.4 3.6 7.4	口縁部ヨコナデ 体部外面ケ ズリ 内面ヘラミガキ 底 部ヘラミガキ 貼付高台	密	良	素地：にぶい黄緑 10YR7/3 釉：柳葉色S-835	口縁部4/12 高台ほぼ完形	全面施釉 見込み部に3点の トチン痕	001-01
2	161-6	緑釉 陶器	椀		口径 器高 高台径 (2.8) 7.0	体部外面ケズリ 内面ヘラ ミガキ 底部ヘラミガキ 貼 付高台	密	良	素地：にぶい黄緑 10YR7/4 釉：おこやなぎ色(サ ロ)-S-825	高台部5/12	内面に沈線 高台部に2点のトチ ン痕	001-02

第4表 第161-1・4・6次調査 出土遺物観察表

付編 史跡現状変更等許可申請

平成20年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、41件である。発掘調査を行ったのは、前年度申請分も含め10件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が4件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが6件である。

41件の申請の内30件は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては齋宮歴史博物館調査研究課並びに明和町齋宮跡課職員の立会いのもとで実施している。

20年度の申請の内容は、一覧表（第5表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等の新築及び改築、解体に伴うもので23件あった。うち個人住宅建築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた5件（第161-1・3～6次調査）について調査を行い、1件は着工時期の関係で次年度調査とした。

他の17件については、個人住宅の改築や除去、工作物の設置などで土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は12件の提出があった。その内容は、道路修繕等が3件、上下水道管の埋設関係が2件、電気・電話関係が7件があり、工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は2件あり、樹木の植栽である。

（D）発掘調査のための申請

この申請は4件（第157次・第158次・第159次・第160次調査）あり、三重県教育委員会が主体となり齋宮歴史博物館が実施している計画発掘調査で、2,895㎡が調査された。これらの内容については齋宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野敦夫）

	申請地	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1	齋宮字柳原2808-1外3筆	D	三重県（齋宮歴史博物館）	発掘（計画）調査	H20.4.23	H20.5.16	1,280㎡	1	第157次調査
2	齋宮字鍛冶山内 竹川字中垣内内	B	明和町（建設課）	道路修繕	H20.5.23	H20.5.29	142㎡	1-3	
3	齋宮字東加座2463-2外2筆	D	三重県（齋宮歴史博物館）	発掘（計画）調査	H20.5.28	H20.7.3	602㎡	1	第160次調査
4	齋宮字柳原・楽殿・下園地内	B	明和町（上下水道課）	下水管埋設	H20.6.4	H20.7.18	L=1,330m	1-2・4	第161-2次調査
5	齋宮字御館2951-1外3筆	D	三重県（齋宮歴史博物館）	発掘（計画）調査	H20.6.20	H20.7.18	525㎡	1	第158次調査
6	竹川字東裏266-8	A	個人	カーポート設置	H20.6.13	H20.6.25	60㎡	4	
7	齋宮字楽殿2890-6	A	個人	倉庫設置	H20.6.14	H20.7.18	97.2㎡	3	
8	齋宮字牛葉2996	A	個人	住宅改築	H20.6.17	H20.7.18	131.66㎡	4	第161-5次調査
9	竹川字古里579	A	個人	給水管設置	H20.6.23	H20.7.18	L=98.1m	3	
10	齋宮字楽殿2893-1	A	個人	自宅駐車場の改修	H20.6.25	H20.7.2	34.72㎡	4	
11	竹川字東裏353	B	西日本電信電話（株） 三重支店	電話柱の移設	H20.6.25	H20.7.2	1本	4	
12	齋宮字楽殿2891-4	A	個人	住宅建築	H20.7.14	H20.8.8	100㎡	3	第161-1次調査
13	齋宮字内山3038-17	A	個人	樹木移植	H20.7.15	H20.9.3	2本	4	
14	齋宮字西加座2775、2776	D	三重県（齋宮歴史博物館）	発掘（計画）調査	H20.7.31	H20.9.3	838㎡	1	第159次調査
15	齋宮字宮ノ前3121外	C	明和町緑のまちづくり推進 委員会	植栽	H20.7.15	H20.9.26	L=280m 1,000本	1	
16	齋宮字西加座2774-1	B	中部電力（株）松阪営業所	電柱の建替え	H20.7.24	H20.8.4	1本	1	
17	竹川字東裏267	A	個人	住宅建替	H20.7.31	H20.9.3	96.09㎡	4	第161-3次調査
18	齋宮字牛葉・鍛冶山内	B	明和町（建設課）	フェンス及び道路修繕	H20.9.9	H20.9.25	123㎡	3	
19	齋宮字西前沖2650-2、2651	A	個人	住宅建築	H20.9.16	H20.10.17	124.25㎡	2	第161-4次調査
20	齋宮字楽殿2890-4	A	個人	自宅駐車場改修	H20.9.26	H20.10.10	27.2㎡	4	
21	齋宮字東加座地内	A	個人	電灯引込みポール及び 支線設置	H20.10.6	H20.10.16	1本	3	
22	竹川字花園667	A	個人	住宅建替	H20.10.29	H20.11.13	53.9㎡	4	
23	竹川字東裏352-1	A	個人	フェンス設置	H20.10.31	H20.11.14	L=50m	4	
24	齋宮字牛葉3391	A	個人	フェンス設置	H20.10.31	H20.11.11	L=50m	4	
25	竹川字東裏336-1	B	中部電力（株）松阪営業所	アース設置	H20.11.4	H20.11.11	2か所	4	
26	竹川字南裏地内	A	個人	カーブミラー設置	H20.11.14	H20.11.20	1本	3	
27	齋宮字牛葉597～竹川字中垣内453	B	三重県（松阪建設事務所）	側溝改修	H20.11.26	H21.1.8	L=1,033m	3	
28	竹川字古里503 地先	B	中部電力（株）松阪営業所	アース設置	H20.11.27	H20.12.2	1か所	3	
29	竹川字東裏349-2	B	中部電力（株）松阪営業所	電柱建替え	H20.12.9	H20.12.16	1本	4	
30	齋宮字牛葉2996、2998-5	A	個人	農業倉庫新築	H20.12.16	H21.1.16	35.12㎡	3-4	第161-6次調査
31	竹川字古里503	C	齋宮跡観光協議会	植栽	H20.12.19	H21.1.16	5本	1	
32	齋宮字楽殿2885-2	A	個人	住宅新築	H20.12.24	H21.1.16	66㎡	3	
33	竹川字東裏357-6	A	個人	フェンス改修	H21.1.5	H21.1.29	L=5.0m	3	
34	齋宮字東加座2437-4	A	個人	切株撤去	H21.2.6	H21.3.19	2株	2	
35	齋宮字西前沖2650	B	中部電力（株）松阪営業所	電柱新設	H21.2.12	H21.2.24	1本	4	
36	齋宮字牛葉2996-1外7筆	A	個人	住宅撤去	H21.2.13	H21.4.17	6棟外	4	
37	齋宮字下園地内	B	明和町（上下水道課）	舗装改修及び水道移設	H21.3.5	H21.4.17	65.5㎡	1	
38	齋宮字牛葉2757-2	A	竹神社	樹木伐採	H21.3.18	H21.4.17	1本	4	
39	齋宮字中西2407-1	B	中町自治会	放送用ポールの改修	H21.3.18	H21.3.27	1本	3	
40	竹川字古里592-9、592-10	A	個人	住宅建築	H21.3.18	H21.4.17	81.16㎡	3	第162-2次調査
41	齋宮字西加座2675-5	A	個人	駐車場改修	H21.3.31	H21.5.15	37.74㎡	4	

第5表 平成20年度 現状変更等許可申請一覧

写真図版



第161-1次調査 調査区全景（西から）



第161-1次調査 SD7339（西から）

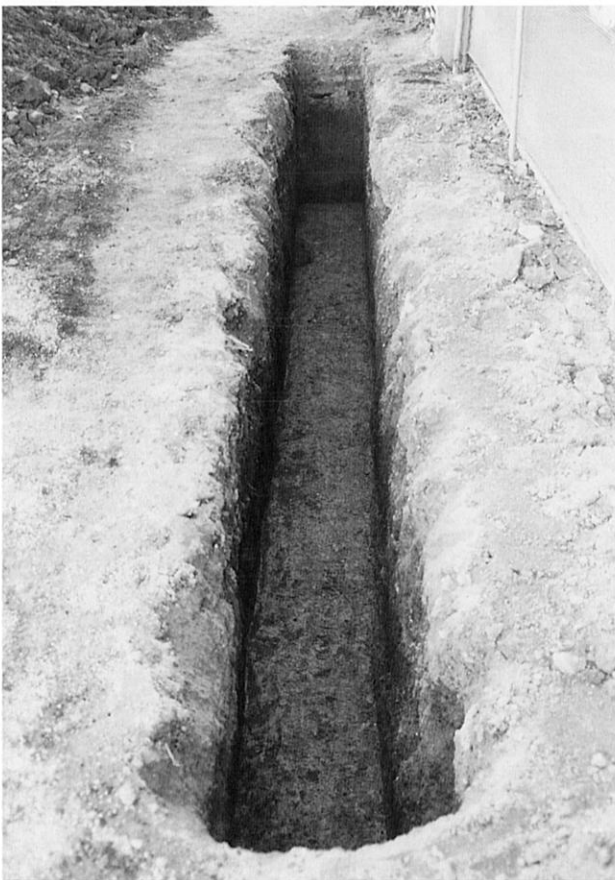
写真図版 2



第161-3次調査 Aトレンチ全景（南から）



第161-3次調査 Bトレンチ全景（南から）



第161-3次調査 Cトレンチ全景（南から）



第161-3次調査 Dトレンチ全景（南から）



第161-4次調査 調査区全景（北から）



第161-4次調査 掘立柱建物S B10043・10045・10046（南から）



第161-5次調査 調査区全景（北から）



第161-6次調査 調査区全景（北から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせいにしじゅうねんどげんじょうへんこうきんきゅうはくつちようさほうこく							
書名	史跡齋宮跡 平成20年度現状変更緊急発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町齋宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	26							
編著者名	大川勝宏 角正芳浩 中野敦夫							
編集機関	齋宮歴史博物館（調査研究課） 明和町（齋宮跡課）							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 TEL 0596 (52) 7126							
発行年月日	西暦 2010年3月12日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° / ' / "	東 経 ° / ' / "	調 査 期 間	調 査 面 積 m ²	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
さいくうあと 齋宮跡	たきぐんめいわち 多気郡明和町 さいくう たけがわ 齋宮・竹川	24442	210	34° 31' 55" ～ 34° 32' 30"	136° 36' 16" ～ 136° 37' 37"	20080401 ～ 20090331	全5件 149.9m ²	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査（史跡齋宮跡第161次調査）
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
齋宮跡第161次	官衙	奈良 平安 鎌倉 室町以降		掘立柱建物 土坑 溝		土師器 須恵器 緑釉陶器 陶器		
要約	<p>第161-1次調査では、鎌倉時代の溝1条が見つかった。第161-3・5次調査では、齋宮跡に関わる遺構は確認できなかったが、参宮街道沿いの遺構検出面の情報を得ることができた。第161-4次調査では掘立柱建物や土坑を検出し、方格地割の北側の状況を確認することができた。第161-6次調査は極めて狭小な面積ではあるが、これまで調査事例の乏しかった平安時代齋宮の「内院」と考えられる牛葉東区画の西に隣接する牛葉西区画の調査を実施し、内院周辺部における新たな情報を得ることができた。</p>							

史 跡 齋 宮 跡

平成20年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成22(2010)年3月12日

編 集 齋宮歴史博物館
明 和 町
発 行 明 和 町
印 刷 光出版印刷株式会社
